つるさき

発行所
鶴 﨑 神 社
〒701-0304
早島町早島 2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
IP-phone
050-3318-1809
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

早島町千歳楽保存会の勇姿（平成 26 年神幸祭）

終戦七十年に思う

今年は先の大戦から数えて七十年の節目の年にあたります。

東京九段の靖国神社には大東亜戦争により、国家存亡の危機に敢然として立ち向かわれた英霊二一三万四千余柱が祀られており、岡山縣護國神社には五万六千七百余柱、更に鶴﨑神社境内の英霊社には早島一六四柱、豊洲・中帯江八〇柱に及ぶ英霊が祀られています。

また、広島では原爆による犠牲者が二〇万人、長崎では一四万人とも言われています。

近代の日本では桁外れに大きな犠牲者の数字です。終戦当時に生まれた方が七〇歳を迎える今日、大戦の記憶が国民意識から遠ざかりつつある事は否めない事実であります。

しかし、今日、私たちが平和に日々の生活を送る事が出来るのは、国の為に戦禍に散ったご英霊のお蔭で有る事を決して忘れてはならないと思います。そして地方に祀られる英霊社や忠魂碑に至るまで、国家の責任に於いて鄭重に顕彰できる日が来る事を願って止みません。

安原伝兵衛物語　5

十二日振りに伝兵衛は早島へ戻ってきた。夕闇に隠れるように御崎宮（鶴崎神社）に寄った。馬を鳥居につなぎ、鎮守の森の奥深く、秘密の洞に路銀を入れた。それから馬を曳いて家路を辿る頃には人の顔も判らぬほど暗くなった。庭先から我家の様子を窺うと別段の変化はなさそうなのでほっとする。でも寂しい雰囲気に変わりはなく胸が痛む。

裏口へ回ると、明かりの下で水を使う音がした。引戸を静かに動かしたら、おかァが気付いた。

「伝兵衛ッ今までどこへ行っとったんじゃ。心配させてからに…」すぐに涙声になってしまう。

おばァと妹たちも飛んできた。下の妹が抱きついた。

「久し見ん間にこねいに大きゅうなったか」「馬鹿こくでねえ、人を笑いもんにして」おばァが怒ったけれど笑いだしてしまった。馬宿からは連日、伝兵衛を探しに来たらしい。しまいには馬を弁償せよと脅したそうだ。

（儂の心配はせずか！女子供を脅かしたり、卑しい根性が丸見えじゃ。古兵衛さんの言った通りじゃ）

親方に渡す銭を減らそうと決めた。おかァとおばァと妹四人によくよく言いきかせ、銭五貫と米一俵を渡した。残り三貫を馬に付けて返そう。その上で何発撲られてもそれでいい。それを耐えたら辞められると腹をくくった。夜は更けたが、馬宿はもともと深夜近くまであけている。決心がついたら一刻でも早く決着をつけたい気持ちになった。

馬宿に近づくと、馬がぶるぶるっと首を振りひと声高く嘶いた。「おめえは帰ってこれて嬉しいのか。あねな処でもおめえの古里だけんな」

伝兵衛は頬ずりして可愛がった。

十二日、とにかく馬だけは怪我させんように気を配ったつもりだ。

「もうすぐ別れじゃけんなあ」

馬宿から黒い影が次々と飛び出して、「伝兵衛が戻ってきたぞ！」「何じゃと、今頃どの面さげて帰ってきたんじゃ！」、「やってしまえッ！」親方の声だ。三人を後ろから焚きつけている。前後左右から撲られ蹴られ、引き倒された。「ちいと話を聞いてつかあさい」伝兵衛が訴えても暴力は止まらない。このまま殺されるかと思った。強く握っていた馬の手綱が拳から放れた。「あれッ馬が逃げ出したぞ！」

乱暴騒ぎに興奮したらしい。（銭積んで、何処ぞ遠くへ逃げてくれ）伝兵衛は心の中で叫んだ。起き上がりかけてまた踞ってしまった。蹴られた腹が激しく痛む。やっと馬は連れ戻され、背に積んでいた米俵と叺が降ろされた。「何じゃこりゃあ、銭がいっぱい入っとるぞ」

叺の銭を見て皆が騒きだした。

「伝兵衛こねえな銭をどうしたんぞ」親方の声は怒号から猫撫で声に変わった。伝兵衛は痛みを堪えてとぎれながら答えた。「しやから聞いてつかあさいと言うとったのに、こねえなひどい目に合わされてしもうて、全くおえりゃあせん」

伝兵衛は怒りと恨みをぶちまけた。「お前らもうちいと手加減せんといかん」親方は全く筋の通らぬ事を言う。さんざん痛めつけてくれた三人は、ふてくされて詫びようともしなかった。

この一年余りは何だったのだろう。何ひとつ心に残るものはない。それにひきかえ吉兵衛と共に働いた十二日は宝物だ。

大怪我という代償とひきかえに、後腐れなく辞めることができた。さらに家族との愁嘆場なく石見銀山にすんなりと行けるきっかけになった。

「こねえな残忍なことをやってのける奴等じゃ。この先何するやら判らん。伝兵衛を石見銀山に行かしたらどうじゃろ。命あっての物種じゃけんな」と、おばァが賛成してくれたのでおかァも渋々同意せざるをえなくなった。傷が癒えるまで、伝兵衛は家族全員から優しい介抱を受けた。おかァは残してくれた銭で二、三年は食べて行けるから心置きなく旅立ってくれと言った。御崎宮の森から隠しておいた銭をとり出した。そして神主に別れの挨拶をした。「お前はよくよく怪我をするし、落ち着かぬ男じゃの。何に？田圃を買い戻すために出稼ぎする気になったんと……」

「はい。石見銀山の錦織弥太夫さ

んが、男が一旗あげるには良い処だと言いんさったですけん」

「えらい遠国じゃのう。備前、備中、備後、美作、出雲、石見……ええと途中にまだあったかいのう、そうじゃ道中安全の祈願とお守りを進ぜちゃるけんな」

伝兵衛は神主の特別の厚意がありがたかった。なけなしの路銀の中から、思いきって二百文奉納した。すると、しばらく待たされた後、旅装束一式を用意してくれた。笠から始まって、白い単衣、半袴、脚絆、甲掛り、草鞋、杖に何と神札二十枚が揃えてある。

それには「大吉備津彦命荒魂、御崎宮之御霊」と墨書してあった。怪訝な顔で眺めていると、「長い道中じゃけん追剥や強盗も出るじゃろ。でも僧侶や神官だったら手加減もするじゃろ。伊勢神宮にはたくさんの御師がおって全国で御札をくばっておられる。伝兵衛は今日から御崎宮の御師じゃ。御札を配って旅すりゃ御利益まちがいなしじゃ」

御師と言っても俄御師、衣裳も恥ずかしい。神主の厚意を無にできないので、御師の恰好で旅することにした。「よう似合うちょるぞ」と神主は自分の案に満足している。

神道Q&A

【質問】

神社で祈祷を申し込むと、年齢を実際より一歳から二歳大きい「数え年」として計算されますが、何故数え年で祈祷をするのでしょうか。

【答え】

年齢の数え方には、お正月を迎えることにより年齢を一歳加える「数え年」と、自分の誕生日ごとに一歳の年齢を加える「満年齢」があります。

神社で「数え年」を聞かれるのは、我が国では、お正月が各家庭で「年神様」を迎えて、新たな年の五穀豊穣と家族の幸せを祈る大切な行事ですので、その時に合わせて家族皆が一歳ずつ年をとる「数え年」がふさわしいと考えられてきたからです。

当初、日本には「零」の概念がなく、生まれた日から一歳で、新年を迎えると二歳になりました。「満年齢」の数え方は、明治以降次第に定着してきたものです。明治五年十一月九日の詔書により、それまで用いられてきた太陰太陽暦（旧暦）が太陽暦（新暦）に改められました。

これは開国によって、当時広く世界に普及していた太陽暦（グレゴリオ暦）を使用する必要性が生じたためです。

また、時刻法も一日を十二支にあてて数える不定時制でしたが、一日二十四時間の定時制に切り換えられるようになりました。

こうしたことを受けて、年齢の数え方も「数え年」から「満年齢」へと変わっていったのです。旧暦は数年に一度、約一カ月間の誤差が生じてくるため、年によっては同じ月が二回重なる閏月があり、例えば年によっては五月が二回重なる場合など、誕生日による「満年齢」の換算には適さないものでした。

しかし、神社では、こうした日本の伝統的な考え方を継承していくことから、現在でも「数え年」を尊重しているのです。

神砂

「神社の砂を受けたい」と来社される方がおられますので、神社で調製しました。

この砂は神迎え祭が行われる出雲の「稲佐の浜」の砂を当社で御祈願した神砂です。

家や店舗、工場などの地鎮祭時にご要望があれば、授与致します。

また、敷地のお清め時に、北東、南東、南西、北西の角と中央に撒いて下さい。

神　砂

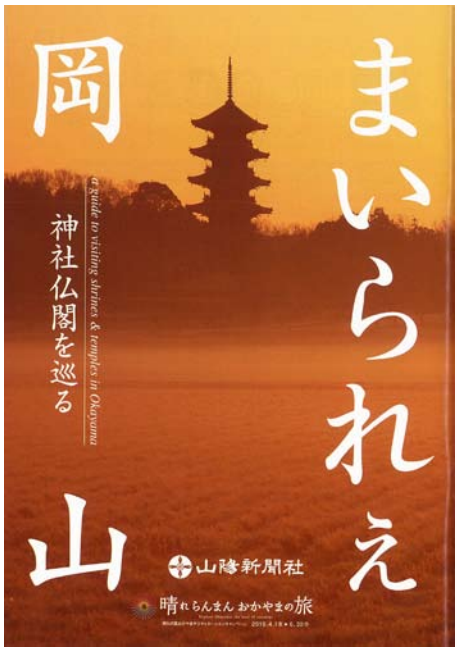
県内の神社仏閣を巡る
まいられぇ岡山

交通の要衝として、古くから繁栄した岡山には、数多くの由緒ある神社、仏閣が創建され、長い間人々の信仰を集めてきました。

そんな岡山の由緒ある社寺を巡拝して、歴史を学び、岡山の信仰を再認識するべく、五年に亘り開催されて来た吉備の国寺社巡り（山陽新聞社主催）が今年度から「まいられぇ岡山」として名称を新しくして四十六の社寺が参加して開始されました。

参加している神社、仏閣では来年四月三十日まで、フォトコンテストとスタンプラリーも同時に行われています。

応募用紙、ガイドブックは拝殿内に置いてありますので、お持ち帰りの上、ご参加下さい。。



倉敷・都窪 開運
神社めぐり

岡山県神社庁倉敷都窪支部では、支部再編を契機に管内の神社六十七社全ての見どころや由緒などを掲載した「神社めぐり」冊子を作製した。

A4判十八ページのフルカラーで、支部内を北地域、南地域、東地域の三地域に分けて地域ごとに神社の鎮座地マップと各社の写真、祭神、祭典、由緒や見どころを掲載し、祈祷や神符守札、朱印の授与の可否をアイコンで見やすく表示している。

今回は三千部を作製し、その内約二千五〇〇部を各社に配布し、五〇〇部を支部内の観光案内所や駅などに置き観光客などにもPRする。

当社の拝殿にも置いてありますので、ご希望の方は参拝時にお持ち帰り下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆初宮詣・七五三詣・交通安全・厄除・九星災難消除・安産・家内安全・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓宅神祭・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祭事暦

十月十七日（土）
鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後七時］
（露店あり）

十月十八日（日）［午前九時］神幸祭

十一月中　七五三祈祷

十一月二十三日（月）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（土）［午後二時］年始祭

毎月一日［午前九時］月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。